

基礎医学コース

| 専門基礎科目 | 生理系科目 |
| 病理系科目 | 社会医学系科目 |

人体の基本構造を学び、
医学の基礎を培います



3年次 病理学実習2
「皮膚・血液」

コースの特色

病気は正常の変化したものと捉えられ、病気の理解は正常の理解に支えられます。

このコースは、2年次1学期から3年次1学期までの1年半に及びます。まず、人体の正常な構造と機能を学び(解剖学、組織学、画像解剖学、生理学)、生命現象を分子・遺伝子レベルから理解します(生化学、薬理学)。また、正常から病気に至る基本的プロセスを学びます(微生物学、免疫学、病理学、基礎応用腫瘍学)。

さらに、人間の健康や病気について、人間集団の相互作用、環境問題、社会制度、予防などの観点からアプローチする社会医学系の科目も学びます(衛生学、公衆衛生学、法医学)。

なお、基礎医学コースから始まる医学専門科目は全科目必修であり、時間割も濃密です。



病理学の実習風景

EVENT



2年次学友会懇話会

4月初旬に基礎医学コース(2年次)進級ガイダンスがあります。医学部長の講話や医学専門課程に関するガイダンスののち、学友会懇話会が開催されます。

医学科生からのメッセージ

医学・医療との関わり方を考える

宮本 裕也さん [4年生]
清風南海高等学校(大阪府)卒業

2年次からは「基礎医学コース」が始まります。皆さんが自分の将来を決めるためのきっかけを与えてくれる大切な期間になるでしょう。本コースでは、ミクロからマクロに及ぶ様々な視点で医学を学ぶことができます。前半は、医学部の醍醐味でもある解剖学から始まり、組織学や生化学、生理学などを通して正常な人体について学びます。後半では、微生物学、免疫学、病理学で正常から病気に至るプロセスを学ぶとともに、薬理学を通して病気の治療に触れることで、臨床医学へつながる知識を深めていきます。これらの学問を最新の研究とともに学ぶことができるのも本コースの大きな特徴です。

また、医師になる上で、「医学」だけでなく、「医療」を学ぶことも重要です。衛生学や公衆衛生学、法医学では、社会と医療の多様な接点や課題を学ぶことができます。さらに、授業だけでは物足りない人は、各分野の研究室で研究に携わることもできます。実際、この期間から研究室に所属する人も多いです。学会発表など貴重な経験ができるチャンスもあります。

約1年半に及ぶ基礎医学コースは、「自分が将来どのように医学・医療に携わるか」をより具体的に考え始めることができる重要な期間です。臨床医として働くのか、基礎研究に携わるのか、行政や地域医療に従事するのか、選択肢は無限にあります。ぜひ、自分の興味を見つけ、積極的に学びのきっかけを掴んでもらいたいです。

